

### 3つの定例活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



小原本陣の森  
第1日曜日



知足の森  
第1日曜日



相模湖・嵐山の森  
第3日曜日

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



## 【定例活動報告】小原の森

毎年文化の日に開催される小原本陣祭に毎年NPO緑のダム北相模で参加、お手伝いをさせて頂いております。今年は締めめの25回目の本陣祭です。神奈川県下では唯一残る本陣（参勤交代で大名が宿泊した宿）という重要な歴史的資源を地域活性化につながるとともに江戸時代の歴史的な文化を後世に伝える意味をもつ行事です。

主な出し物は、「大名行列」、野点、本陣太鼓、大名茶会、大道芸、鉄砲隊による演技等が行われ、街並みは江戸時代の再現をして街を挙げてのお祭りです。今年は、急遽、昨日怪我人が出たため、私が「駕籠かき」をすることになり、見物者ではない側から、沿道の見物客を見るという貴重な体験をさせて頂きました。来る11月25日より、小原の郷にて永井家の襖の下張りに残された旧家の

緑のダム北相模は相模原  
市内で活動する森林ボラ  
ンティアです。急がず、無  
理せず、楽しく、休ま  
ず、ボチボチと・・・。



江戸時代に使ったであろう宿帳や金銭の証文紙を念入りに剥がし取り当時の標本にした標本展示会が開催されますので、是非お越しください。

さらに11月25日は活動日とはなっていないが、Fores ToClassの瀧澤氏と二藤氏が来て永井さんの山（入沢）の調査を行うというので同行の為小原に行った。ちょうど小原の郷で開催の江戸の標本展の準備をされていた。畑でまわっていると、瀧澤君と二藤君が入沢から戻り、沢の奥が荒れていて道が見当たらないと戻ってきた。

食事も取らず、早速私も同行し三名で入沢の右ルートから稜線に出て、彼らが確信持てる下山ルートと言う、250メートル程登った道標場所から下りに入る。

当分、それらしい道が続くが、沢の上に来た辺りで左右に分かれたので、私は左を取り、瀧澤君たちは右ルートを取り下で合流することにした。道は、藪と倒木でまともに歩ける状態ではなかった。

入沢の取つき点では、どうも三十三曲りは別にあるのではないかと、という疑問があった。昔はおばあさんを負ぶって登ったという三十三曲りで良く利用されていたとのことそれにしては歩いた形跡が見えない。昔から人が歩いていた道端には笹が茂ると言われるので、笹も注意して探しながらルート開拓をあきらめない心に決めた。

小林 照夫（本会、理事）

## 【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

今月も、第3日曜日の定例活動に30名以上の参加者が集まりました。森林整備班は活動拠点の移動のための準備。モマハウスと呼んできたハンドメイドの木工小屋の解体。倉庫部分を壊し、屋根を外し、あつという間に、更地に。名残惜しい気持ちも大きかったですが、新しい活動への飛躍、ということで黙々と作業を進めました。地球環境部は今回も欠頂木等の間伐、集材を行いました。今回も学大小金井中生に加え、三鷹二中、その卒業生と多摩美の学生も参加しての活動となりました。今回の目的はズバリ、電話線脇の間伐。しかもその木は電話線側に傾いてしまっている。これを処理するためには、チルホールという手動ウィンチを使い、垂直に戻しながらの間伐になる。ロープワーク、滑車もきちんと使えないとチルホールは使えない。しかも以前、チルホールの勘所がわからず、思いっきり力をかけたため、ロープを切ってしまったことがあったため、参加者は皆緊張した面持ち。まず練習にと、目的とした木のすぐ脇のもう少し小さくて細い似たような状況でチルホールを試す。木自体は私がチェーンソーで切ってしまう、そこは省略。無事にその木は狙った方向に、チルホールによりゆっくりと倒れた。これなら、と本番に木にロープをかけ、定滑車、動滑車とつないでいった。今回初めて参加した小金井中の3年生が受け口を作ったところで、慎重にチルホールで引き、木を垂直にした。これで一安心。ゆっくり、ゆっくりとチルホールを引き、無事に間伐完了し、生徒からは歓声が上がっていた。あの時、チルホールに失敗し、高校生になって森に通っている生徒は特に感慨深そうだった。午前中にモマ工房の解体に取り組んでいた森林整備班や桜井先生も合流していただき、集材を進めた。モマ工房は綺麗に片付けられ、いよいよ嵐山の撤収も間近になってきた。この丸太は板にし、足をつけたのち、ベンチとして活用する予定。

宮村 連理（本会、副理事長）



## 【イベント報告】

### 『30000個の積み木と遊ぼう』

2018年12月1日～2日、「こがねい環境フォーラム」の一環として『30000個の積み木と遊ぼう』が小金井宮地楽器ホールにて開催されました。

昨年に引き続き企画運営を担当した東京学芸大学の学生の皆さん、宮村先生率いる中学生の皆さんと共に、多くの来場者をお迎えしての所感をご報告します。

森林についても、教育・保育についても専門家ではない者に会場担当が務まるか、不安と共に迎えた初日でしたが、開場から1時間もすると杞憂であったと分かりました。中学生達が思い思いに創る作品に吸い寄せられるように、ぼつりぼつりと子どもたちが集まり始め、少し遠慮がちに会場に入ってきた子も、ひとつふたつと積み上げるにつれ次第に自分と積み木との世界へ。引率者然としていた保護者もまた、いつの間にか積み木に触れ始めては自身の創りたいもの表現したいことを積み上げていました。会場に入った皆が誰に言われるでもなく自然とそこにある積み木に触れ・重ね・鳴らし・創り・体を預け、、、。30000個の積み木の包容力と可能性を強く感じました。

様々な造形と共に、そこかしこで年齢も属性も異なる初めて会う者同士のコミュニケーションがごく自然に生まれていました。子どもと他のお母さん、市役所の職員と小さな子どもたち、幼児の父親と中学生、会場外でほほえみながら様子を見ている婦人と会場担当者、窓際に一生懸命何かを創っている子どもとガラス越しに腰を屈めそれを覗き込む通りのがかりの老紳士。積み木という誰もが知っているものから、思い思いの触れ合いの形が創ら

れ、それを介したコミュニケーションが生まれるという、理想的な循環がそこにあったと感じます

会期中に積み木に触れながら、中学生から「アートって何ですか?」と問われました。また、中学校の夏休みに「アートの機能性」について論ずる宿題が出たのだとも聞きました。なんと考えさせられる問いかと感心しながらも「アートというのは、表現活動、、、かな、、、」などと口ごもり、折角の問いを生かせないもどかしさに考え込んでしまいました。たくさんの来場者の作品と心に触れる2日間を経た今なら、もう少し別の話が出来たでしょうか。考え込んだ末、大学院の美術教育を専攻する学生さんに尋ねたところ、「アート」の語源には「人工」が含まれ、その「工」という字の起源は「天と地(上下の横画)とをつなぐ人の営み」なのだと教えられました。他にも、今年のイベントでは、会期中メンバーが手に取った二つの積み木の年輪がぴたりと合うという偶然が起こったのだというエピソードも聞かせてもらいました。森を守るために土からはなれた木々が、このような形で皆の間をめぐり、たくさんのストーリーを紡ぎながら人々をつなげてゆくのだと、まだ行ったことのない北相模の森を想いました。

個人として、幾度も心を動かされた思い出深い2日間となりましたが、このようなイベントは貴法人のご尽力の成果の一端に過ぎず、会員の皆さまの不断の活動や森への思いがあってこそ実現したものなのだという事を心に刻んでおかなければと考えています。

共に過ごし学びの種を与えてくださった方々に感謝し、次回はより多くの方に森を感じてもらえるよう、少しずつ学び続けることを自身の目標にしました。ありがとうございました。

上里 かおり (NPOこがねい環境フォーラム)





## 桜井尚武の 森のコラム

### 「晩秋の森の赤い実 II」



図1. フユイチゴ  
20181118嵐山



図2. ミヤマシキミ  
20181118嵐山



図3. ベニバナボロギク  
20181118嵐山

晩秋の11月18日の嵐山定例会は高曇りで風がなく穏やかな一日でした。足元にフユイチゴ(*Rubus buergeri*)の真っ赤な実がありました。この時期に赤い実を成らせるので冬苺の名が付いたそうです。この実は甘くておいしい。キイチゴ属(*Rubus*)は棘があり叢生して走出枝で次々と新しい叢生拠点を作って増えるので、林業上は植付後数年行う下刈りの時の困りものです。けれどフユイチゴは樹高が精々20cm~30cm程度にしかない林床植物であり適潤立地の指標植物なので愛らしく感じます。しかも実が美味しい。

ミヤマシキミ(*Skimmia japonica*)も赤い実を付けていました。これは有毒植物です。葉を明るい所に向けて透かしてみると0.1mm位の大きさの透き通った粒が無数に散らばっているのが見えます。ミカン科植物の特徴の油点で、これが明瞭に見えるのがミヤマシキミの分類の決め手です。葉を割いたり揉

んだりするとこの油点の成分が出て特有の香りを放ちます。常緑植物でこれがある場所は暖帯だなあと思うのです。

道脇にベニバナボロギク(*Crassocephalum crepidioides*)を見つけました。アフリカ原産で第二次世界大戦後に九州で見つかり数年後には関西まで広まってその後さらに関東にも普通になったといえます。山林伐採等で広い無立木地を作ると、そこに大量に発生する下刈り対象植生です。キク科で食用になります。戦時中の南方戦線で兵隊さんは南洋春菊といって重宝したそうです。私もフィリピン大学ロスバニオス校近傍のアグロフォレストリー試験地にたくさん生えていたのを収穫して、日本人会のパーティの時におひたしを作って出したら好評でした。そこで10月の定例会の時に路傍にあったのを引き抜き角屋さんで湯がいて貰って出したら、食べた人からは好評をいただきました。

桜井 尚武 (本会、会員)

## 【若者の森づくり】 Forest Nova

私は今回さがみはら市民活動フェスタ2018に参加し、酒まんじゅう販売のお手伝いをしました。一度酒まんじゅうを買ってくださったお客様が美味しかったと再び買いに来てくださったりと、リピーターになってくれた人が多かったのが印象に残っています。また歩き売りを行ったときに買ってくださったお客様が、わざわざ販売ブースを探して買いに来てくださったのが嬉しかったです。

さらに看板を事前に準備できていなかったため、当日急いで作ったのですがわかりやすいと好評だったのが良かったと思います。

反省点としては、仕入数が多く売れ残ってしまいそうだったため終盤は販売価格の半額で売りに出したとき、通常価格で買ってくださったお客様から不満を言われてしまったことです。次にこのようなイベントがあれば反省点を生かし、楽しく参加できればと思います。

三橋 晴香 (Forest Nova)

## 【若者の森づくり】 ForesTo Class

### 萩山に続く新フィールド視察

小原の山を新たな活動拠点とするため、孫山とは別側の入山付近を視察しました。沢を挟んで尾根沿いに広がる雑木林に向かうフィールドは広紀さんの山で、登っていくと、途中で平らなスポットが2ヶ所存在しています。景観間伐すれば嵐山方面の山筋が綺麗に見られそうであり、検討していきたいです。

2ヶ所目の登って右手には、永井勲さんのヒノキ林が広がります。ここから沢につながる道を三十三曲がりと呼ばれていますが、午後小林さんと二藤さんとGPSをつけて歩きましたがやはり見通しが悪くわかりませんでした。その上と左側は別の方の所有であり、今後確認させていただきながら整備を進めていきたいと思えます。

孫山に続く頂付近になると平らなエリアが広がり様々なことができると感じました。この日は天候も良くキツツキの木を叩く音が心地よく、足取りも軽やかになりました。私自身1年半振りに相模湖へ行きましたが、駅は山登りの方が前より多く感じ、観光資料も多く駅に置かれていました。

都市から山へ人が入っていくきっかけの場所として、相模湖、小原はアクセスしやすいと思うので森林の利用価値を高められるツールを考えていきたいです。

滝澤 康至 (ForesTo Class)

## 【若者の森づくり】 地球環境部

11月の第1日曜日の定例活動日は学芸大学の学祭に参加することになりました。学芸大小金井中の生徒と地球環境部、同大の環境学習リーダー養成講座の学生さんと協力で積み木イベントを行いました。今回はイベント全般を仕切ってくれた大学生の感想をご紹介します。



### 「積み木で何ができるかな」

私たちは、11月4、5日の2日間東京学芸大学の大学祭、小金井祭において「積み木で何ができるかな」を企画致しました。昨年のこの企画が大変好評だったためぜひ本年度も、ということで行わせていただきました。

間伐材を使った積み木を用い、京都タワーや都庁などの作品を来場者も交えながら制作しました。小さな3種類の積み木から大人の背丈ほどもある大きな作品が出来上がっていくのは、子供だけでなく大学生の私たちや保護者の方もワクワクするようなとても楽しい企画でした。1歳にもならない小さな子から、小学校高学年の子、さらには保護者の方までそれぞれがそれぞれの楽しみ方で積み木を楽しんで頂けたと思います。

現在、森林所有者の高齢化などから間伐などの手入れがされていない森が増えていることも問題になっています。今回、積み木で遊ぶ合間に子供たちにもこのような問題について話し一緒に考える機会を設けました。小さなことかもしれませんが、少しでも問題を知り、考える人が多くなればと思います。ありがとうございました。

吉田 安理沙  
(東京学芸大学教育学部A類環境教育2年)

## 【緑のダムの20年を顧みて】

### FSC認証取得した先進例の視察

2000年（平成12年）2月に、日本で初のFSC認証を三重県の速水林業が取得したことを朝日新聞の特集記事で知った。続いて同年10月には、高知県の梶原森林組合が日本での認証取得第2号となった。そこで、この2つの森林現場を見るべく、翌年3月末に、高知から三重へと北上する形で、2泊3日の視察行に取り組んだのである。

まず訪れたのは高知県・梶原森林組合（FSC認証林第2号）。梶原町は愛媛県と高知県の県境の秘境といっても良い山奥で、高知県庁の林務担当の任にあった小原忠さんに案内していただかねば行き着くことができなかつたであろうかと思うほどの山奥にあった。四万十川の源流域であり「竜馬脱藩の峠：葎ヶ峠」が有名な場所である。梶原町役場で町長や森林組合長の話を伺い、森林組合事務所や森の現場を数か所見せていただいたが、実際のところ、ここがどうしてFSC認証林なのだろうかという印象さえ受けたのである。

われわれの会としては相模湖町で適地を探し回っていたわけだが、梶原の森を見て、これで国際規格のFSC認証林であるなら、相模湖の森を団地化してFSC認証林にしてみせるぞと思ったのだった。しかしその後の経過を調べてみると、梶原町は、あらゆる知恵を絞ってFSCの名に相応しい姿に変化している。それは、ここに案内して下さった小原忠さんのような行政の方々と森林組合員によ

る「共に生きる努力」が続けられておればこそであったと思う。

続いて訪れたのは 三重県・速水林業の森（FSC認証林第1号）であった。速水林業の本社（北牟婁郡紀北町：創業1790年、面積1070ha）は、大型コテージでいかにも歴史ある林業会社の風格を備えていた。当時は、親父さんの速水勉さんも健在で、お話を伺うことができた。

ご子息の速水亨さんに認証林の中を案内して頂いたが、高木・中低木・灌木がキチンと見分けられることのできる見事な森で、林道の片隅の水溜まりは「猪水場」で、杉種の試験林や創業当時使用していた道具一式の展示場もあった。また、大型林業機械倉庫には、整然と各種の林業機械がならべてあった。その中に大型ジープがあり、車両前部に頑丈なウィンチが固定されていた。NATO軍の大型ジープ（45度の急傾斜でも上る改良型ユニモグ車）を改良したもので、森の藪の急坂を登る時や林業道具の搬出入・従業員の移動等にも使用するというのである。地下から湧き出す水を活用する導水路もあった。鳥の声も賑やかで森林の多様性を気付かされた。当時まで211年間、林業一筋を貫いた林業の姿だった。

石村黄仁（本会、顧問）

## NPO法人

### 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

発行人：NPO緑のダム北相模

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

パタゴニア環境助成

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク株

### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第3日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。